

# 産経新聞厚生文化事業団中長期計画要旨

(平成 23 年度～27 年度)

産経新聞厚生文化事業団

平成 23 年 4 月

## 1. 目的—普遍的価値、理想的な組織形態をめざして

本計画は平成 23 年度より概ね 5 年間に取り組む重要課題をまとめている。中期計画は 25 年度末まで、長期計画は 27 年度末までに結果を出したい課題を掲げている。

## 2. 基本姿勢—法人の強みを生かして地域福祉に貢献する

### ○福祉サービスの理念

われわれは、社会の中でとりわけ弱い立場である障害者の人権を守り、その自己実現をサポートすることで、だれもが生きいきとした暮らしができる世界へ近づいていけると信じている。

### ○社会資源の自覚

地域におけるさまざまな福祉需要にきめ細かく対応して地域福祉を担う。産経新聞社のブランド力を背景に、良好な福祉サービスの提供に努め、地域に貢献する。

### ○相互補完の強み

当法人が多様な施設を有し、人材、設備、資金などを相互に補い合える態勢が整っていることを認識し、各施設のカラーをいっそう鮮明に打ち出す。

## 3. 計画本論

### [1] 各施設の計画—支援の質向上へ特色と創意工夫を生かす

#### ■能勢グループ

#### 救護施設「三恵園」

##### 【中期計画】

- ①新施設ではユニットごとに障害程度に合わせた支援を行い、3 年で最適な手法を確立する。
- ②精神科病院の退院者の増加が予想されるため、精神保健福祉士の取得職員の増加を図る。
- ③居宅訓練事業で地域移行を積極的に進める。グループ全体で仕組み作りを検討していく。

##### 【長期計画】

新園舎の地域交流室を生かして、小中高の児童・生徒たちや地域住民が集えるよう、外部への広報手法を整備する。

#### 第 2 三恵園

##### 【中期計画】

- ①利用者の資産管理等を施設と分離するため、後見人制度の積極的な活用を図る。
- ②利用者の男女比を 25 : 25 に近づくよう、設備面もふくめ整備調整を図る。

##### 【長期計画】

今後の事業展開は豊能地域全体を対象とし、在宅利用者を中心に青年層の利用者のニーズ

を掘り起こす。定員については適切な規模を目指して柔軟に取り組んでいく。

## **地域生活事業部**

### **【中期計画】**

日中活動事業所に通所する利用者の足として送迎サービスを実施する。

### **【長期計画】**

- ①新たに多機能型事業所を開設する。
- ②なごみ苑の借用期限をにらみながら事業部の新たな事務所を確保する。
- ③介護保険事業への参入を研究する。

## ○ [大里荘]

### **【中期計画】**

- ①地域の暮らしを支えるために総合支援計画を作成し、24時間体制で総合的に支援していく。
- ②地域の民生委員や福祉委員に働きかけ、関係を密にする。
- ③各ホームの敷金、礼金の減価償却などについてホームの内部規程をつくる。

### **【長期計画】**

利用者の高齢化に対応して、平屋建てケアホームを開設する。

## ○ [なごみ苑]

### **【中期計画】**

- ①利用者の生活経験を生かし織物、手芸、畑づくりや清掃活動や地域交流などを充実させる。
- ②なごみ苑を地域の共有資源としてのコミュニティの場所としていく。そのため、地域資源として事業所の開放、介護予防教室の開催など社会活動をする。

### **【長期計画】**

- ①入浴、調理など自立訓練設備を備えた多機能な事業所の可能性を検討する。

## ○ [すみれ工房]

### **【中期計画】**

高齢化により就労でなく生活介護への需要が増えるため、体力にあった仕事を考える。。

### **【長期計画】**

- ①地場の特色を生かしたもので地域の福祉工場を立ち上げる。
- ②現工房が老朽化し、手狭なため交通の良い場所への移転を検討する。
- ③地域の商工会や企業、事業所と一体となって障害者雇用に取り組む。

### **【地域に根ざした支援計画】**

- ①高齢化が進んでいる地域で農業作業を手助けするなどして、地域に役立つ事業所をめざす。
- ②地場の特産野菜や土地、人材を生かし、イチゴ狩りファームなどの仕事を見つける。

## **たんぽぽの家**

### **【中期計画】**

- ①新体系移行に伴い、既存事業の見直しも含めて個々人に合った作業（プログラム）を提示できる事業の開拓や整備を図る。
- ②レザークラフト教室をプログラム化し広く地域と交流するシステムを作る。

### 【長期計画】

- ①ケアホームの設置をめざす。
- ②現在の建物は老朽化してきており、町と協議しながら改修等について検討していく。

## ■池田グループ

### 池田三恵園

#### 【中期計画】

- ①陶芸教室用の作業室を増設し、ケアホームで暮らす利用者の日中活動にも使用する。
- ②ケアホームは当面、4名1ユニットの8名ホームを計画。自前での建設も検討する。
- ③重度の自閉症と知的障害を併せ持ったケアホーム利用者のため、慣れた環境の三恵園に通ってきてもらえるよう、生活介護の定員を30名から40名へ増員を図る。
- ④地域移行者の工賃をアップするため、「池さんブランド」を確立する。

#### 【長期計画】

職員の能力のレベルアップを図り、自閉症支援、本人活動、地域に向けての支援、障害者理解などでプロとしての取り組み、考えをアピールし、将来的に講師も務められるようにする。

#### 【地域に根ざした支援計画】

- ①実習生を受け入れ、施設の場所貸し、陶芸教室を活発化などで、施設に職員以外の人がいっもいる仕組みをつくる。
- ②阪急池田駅前で開催されている「ほっこりひろば」に積極的にかかわり、保護者らと協力して利用者が休日に集える場所作りを目指す。

### こすもす

#### 【中期計画】

- ①理学療法士による障害者のリハビリの重要性を発信し、理学療法士や地域の病院など医療機関とのつながりを強化する。
- ②車椅子を使う利用者の増加が見込まれ、対応できる送迎車輛を購入、トイレも改装する。

#### 【長期計画】

利用者数が29年度に大幅に増えることが予想されるため、設備の改修、改築を検討する。

### くすのき学園

#### 【中期計画】

- ①在園期間を本人が希望する期間へと改正できるよう市などに働きかける。
- ②うどん販売チームを作り、製品作り・販売方法・販売先等を検討をする。「くすのき庵」を10人規模の事業所としてスタートする。

#### 【長期計画】

池田市と改築あるいは移転について検討していく。

### 福祉相談くすのき

#### 【中期計画】

- ①安定した事業の実施をめざし、対外的に実績をアピールし業務態勢を整える。
- ②電話やメール、訪問、紹介など相談者が相談しやすい態勢を整える。

### 【長期計画】

- ①地域の共通課題を地域自立支援協議会などで検討、社会資源を開拓する。
- ②市と協力して在宅で何もサービス利用をしていない人の調査をし、支援に結びつける。

## [2]法人全体で取り組む計画

### (A) 安全な支援の確保—危機管理システムの整備【中期計画】

- ①リスクマネジメント委員会を軸に、リスク回避へ向けて体系的な推進システムを構築する。
- ②コンプライアンス（法令順守）の重要性を認識し、労働契約、解雇等のガイドラインの徹底、人権意識の高揚などに取り組む。

### (B) 目標の共有化と職員の自己研鑽—目標管理・評価制度の見直し【中期計画】

現行の目標管理・評価制度について3年後をめどに見直す。

### (C) 研修制度の確立

#### 【中期計画】

- ①研修とキャリアパスとの関連付けについて検討を進める。
- ②外部研修と法人内研修のあり方を検討し、職員の受講情報を一元管理する。

#### 【長期計画】

当法人の研修を他法人に使ってもらえるよう、ビジネスモデルとして確立する。

### (D) 効率的な運営と組織の整備【中期計画】

#### ■ガバナンスの確立

ガバナンスの確立へ向けて、長期的視野で理事会機能の充実を考える。

### (E) 時代に即した態勢づくり

#### ■地域福祉へ向けて総合的な拠点づくり【中期計画】

「地域生活総合支援センター」を能勢地区と池田地区に新たに設置する。ここに24時間対応可能な相談窓口やケアホーム・グループホーム、日中支援施設を統合し、将来的に居宅支援事業所の開設も視野に検討を進める。地域生活事業部を同センターに名称変えし、福祉相談くすのきを統合する。

#### ■新事業と新しいタイプの障害を研究

#### 【中期計画】

- ①平成24年度に開所する予定の就労新事業所について諸準備を進める。
- ②発達障害など、従来障害の範疇でとらえられていなかった分野の研究組織を立ち上げる。

#### 【長期計画】

社会福祉士養成通信教育、ヘルパー養成講座、介護分野への参入を検討する。

### (F) 社会への貢献【中期計画】

- ①新聞社の社会福祉法人として、広い視野でチャリティ事業、助成事業を展開していく。
- ②集まった寄金を有効に活用するため事業団の特色を打ち出した助成事業を開発する。